

木童 東京ショールーム
 open 平日10:00-18:00 close 土・日・祝
 (事前予約いただければ土日祝の見学も可能です)
 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティ1F
 TEL:03-5358-5125 FAX:03-5358-5126
 URL:http://www.kodoh.co.jp E-mail:Tokyo@kodoh.co.jp

★地松のタイコ梁の味わい

ショールームの和室部分の梁が2本、以前と替わっているのにお気づきでしたでしょうか？

杉の平角（120×210）から赤松のタイコ（末口240φ）へ。堂々と見栄えのする構造になりました。



取り付け工事は人力で。所長頑張りました(中)



大工さんの仕事を間近で見られて良い勉強になりました。

赤松は本来、この曲がりの具合を生かして梁に使われていました。大工さんが手刻みをしていた頃は、それが当たり前だったのですが、最近ではプレカットと言って、工場で機械加工するのが主流です。この場合、曲がりのある赤松は工場のラインに乗らないために敬遠されます。それに追い打ちをかけるように、松食い虫の被害によって赤松自体の供給量が減ったこと、安い米松が大量に輸入されてくるようになったことなども重なって、赤松を梁に使うことが逆に珍しくなってきました。木童では、この曲がりの梁を**1本単位**で受注致します。寸法や仕上げ方などを打合せの上、化粧で1本だけという使い方もOK。ぜひショールームでホンモノを味わって下さい。

★森を訪ねて ～長野県～ のご報告

♪8:00ちょうどのあずさに乗って松本に10:37に到着。1泊2日で長野県内を駆け巡ります。今回の視察の背景には、戦後植林のから松が太ってきたことと乾燥技術の向上と確立があります。目的は、長野県産材の現状確認と構造材の産地として今後使えるかの確認です。神戸より木童代表の木原とも合流し、長野県林務部の久保田さんの案内で、松本・上田・長野・駒ヶ根・飯田と移動し、4カ所の製材所や加工工場を見て回りました。(上のタイコ梁の工場も、その中の1件)



タイコ用の赤松乾燥材の養生(約6ヶ月)

木童と長野の付き合いは古く、木童=信州から松と言っても良いくらい想いの通った材を木童のスタートより供給してもらっています。「南波から松」の床材壁材は、から松への偏見を変えたと自負しています。

林務部の久保田さんからは、木童の品質を長野の生産者に教えてほしい、育ててほしいと言う要望が有り、木童としても、東京に近い産地で高いレベルの乾燥材を供給出来る産地があることは有り難いことです。



山奥の製材工場の風景

正直、まだまだこれからと言う部分も多く見られましたが、それぞれの生産者の良い所を集め、更に、木童の他の産地とも組み合わせながら、形にしていきたいと強く思います。土台は桧・柱は杉・梁桁はから松・赤松という適材適所の家を実現出来る準備が出来つつあります。

※2月には、能登半島(能登ヒバ)と北海道(広葉樹とからパネル・とどパネル)に行く予定です。また、ご報告します。

★あの吟醸酒バー“蔵66”が新しくなって再登場！～設計・アトリエアルコ～

本吟醸酒協会直営の吟醸酒バーのご案内です。昨年大好評だった“蔵70”に続き、今回は66の蔵元のお酒が飲める“蔵66”として**1/18(木)にOPEN**しました。

設計も前回と同じくアトリエアルコの唐澤氏が手がけ、カウンターと日本酒の陳列棚に**熊本県産小国杉**を使い、**木童の柿渋**で落ち着いた色合いに仕上げ、より水汚れに対する抵抗力を持たせるために**木童の桐油**を塗り重ねました。この塗装工事はOPENの前日に行われましたが、臭いを抑えた木童の柿渋は、柿渋特有の臭いも残らず、気持ち良く初日を迎えることができました。

(本来の柿渋は本当に臭いです。室内で使うにはかなり勇気がいります)

10月末日までの期間限定出店ですので、機会のあるうちにぜひぜひお立ち寄り下さい。

ちょっと蘊蓄：

杉と日本酒は大の仲良しです。酒樽は勿論杉の木！酒樽が杉の植林技術を発達させたと言っても過言ではありません。また、柿渋も日本酒とは切っても切れない縁です。お酒をしぼる袋は柿渋で染めた布を使います。灰汁や雑菌を取り除くと言われてています。

- ★特長① 66本の蔵元のしかも吟醸・大吟醸ばかりが勢揃い
- ★特長② 価格が破格！(グラス300円～)
- 場所：JR東京駅八重洲南口B1 さらびか通り・ラーメン激戦区内
- 営業時間：16:00～22:00 (LO:21:30)
- 定休日：なし

★杉の車椅子を見つけました

“杉の車椅子”初めて見る方も多いのではないのでしょうか？

堅木のナラやタモではなく“杉”は木童スタッフにとっても初めて見る感動の出会いでした。医療機器とは思えない柔らかな雰囲気。数字で表せない、不思議とホッとする感覚は、まさに“木のあたたかみ”が全面に生かされているという感じです。

その座面に座る人にも、その取っ手を持って押す人にも、思わず手に取りたくなる衝動というのは、大事な要素ではないのでしょうか。五感を刺激すること間違いなしです。



※見本として貸し出しを要望中です。皆様からのリクエストが多ければ実現する可能性が高くなりますので、ご意見よろしくお願いいたします。

木童 NEWS ラインナップ

- 第21回企画展 1/29(月)～2/3(土)「木の家建築展・参加して楽しみながら家づくり」2/3(土)13:30～ セミナー予定 テーマ『「木の家」の費用の話』講師：大沢宏氏
- 第22回企画展 2/9(金)～2/23(金)「民家再生の可能性～O計室展・大沢匠の仕事展～」2/12(祝)はショールームOPEN致します。O設計室・大沢匠さんも常駐されます。
- 第23回企画展 3/5(月)～10(土)「NPO法人木の家大すきの会」3/10(土)13:30～ セミナー予定 テーマ：未定
- 第24回企画展 3/12(月)～3/30(金)「HAC(ハウジングアシストクラブ)展」(予定)
- 1/18～3/27まで新宿 OZONEにて『日本とつながる NIPPON -迎える-』展示開催中。木童の土佐梅の床材(木童の桐油仕上げ)も紹介されています。
- 床材の新製品 『くるまみずき』。“白い床”です。サンプル用意しております。
- **桧の学習机**展示中。成長期の子供にこそホンモノの良さを伝えたい！